

研究分野のキーワード：生活科，総合的学習，授業づくり，幼児の自然教育

## 研究紹介

みなさんは、小学校低学年のときに「生活科」という教科を学びました。生活科は、平成元年の学習指導要領の改訂で、低学年に創設されました。今のところ一番新しい教科です。それ以前は、低学年にも理科・社会科がありました。また、総合的学習は、平成10年の学習指導要領の改訂で、小学校3年生以上に創設された時間です。

生活科や総合的学習では、決められた多くの知識を詰め込む教育でなく、体験を重視して、子どもの主体性を育成することを大切にしています。授業だけの学びでなく、授業で取り上げたことを学校の休み時間はもちろん、放課後や休日に、家庭や地域でもその延長線上で、主体的に学ぶ姿を期待しています。そうすれば、義務教育が終わっても、大学に入学しても、社会人になっても、主体的に学べる資質や能力を養うことができると考えられたからです。生涯にわたって学び続けることができる力の育成を目指す理念のもとに設置されたのです。

このような生活科や総合的学習の指導方法、教材、授業づくりなどを実際に小学校の先生方とやりとりしながら研究を進めています。

私自身も大学院を修了してから、14年間小学校に勤めた経験をもっています。この体験を生かして、大学の授業や学生指導に当たっています。例えば、実際に畑で野菜を育てるような実践的演習や昼食時には、ゼミの学生・院生のみなさんとご飯を炊いて、おかずを持ち寄り、一緒に食べています。また、毎年9月にゼミ合宿をして、卒業研究の方向性について検討したりしています。小学校の教員時代に身につけた担任感覚を忘れないようにしたいと思っています。

平成24年度に私の研究室での卒論のテーマを紹介します。

- 生活科における空き缶笛の教材化に関する実践的研究
- 生活科における色水遊びに関する実践的研究
- 生活科における木の実や野草の教材化に関する実践的研究
- 生活科における泥だんごの教材化に関する実践的研究

主に自然にかかわることをテーマにしています。まず、いくつかの教科書や生活科を担当してみえる小学校の先生方にアンケートやインタビュー調査をして、課題を明確します。次に、テーマに沿った教材研究をします。最後に、近隣の小学校で、開発した教材を使った授業実践を行い、その有効性を検証するといったスタイルで研究をしてもらっています。